

# 朝鮮半島情勢の変化に備え医学界が把握しておくべきこと

勝田吉彰 (関西福祉大学社会福祉学部教授)

〔要旨〕南北首脳会談、米朝首脳会談が開かれ、朝鮮半島情勢は大きく変化していくが、そうした中で医学界が把握しておくべきことを、WHO統計および筆者自身の脱北難民保護業務経験から記した。今後は「38度線を跨ぐ人の流れが増えること」と「医療支援で関わる可能性」がポイントとなり、その動向により、感染症の流入、医療支援の両面から同国の状況をフォローしていく必要がある。

紆余曲折を経ながらも2018年6月12日に米朝首脳会談が実現に至り、それに先立ち南北首脳会談が複数回行われた。今後の会談予定も取り沙汰され、朝鮮半島情勢は大きく動いていく。

筆者は前職、外務省医務官として北京に勤務する中で、脱北者案件に関わった。ウィーン条約で保護された外国公館に駆け込んでくる北朝鮮難民の保護業務に従事しつつ、医療過疎を実感する経験となった。今後の半島情勢の動きにより、我々医学界の人間は何を知っておくべきか考察する。今後の動きについて、米国大手証券会社のモルガン・スタンレーは、「雪解け」「交流」「統一」の3つのシナリオに分けて検討しているが<sup>1)</sup>、いずれも38度線を跨ぐ人の流れは増える方向で共通しており、この「38度線を跨ぐ人の流れが増えること」と「医療支援で関わる可能性」がポイントとなる。

## 1 基本統計

この国では統計的な資料がほとんど公表されていないのが実情であり<sup>2)</sup>、WHOの統計に頼らざるをえず、本稿でもWHO統計に基づいて論じる。ただし、元々WHOに報告されたデータが恣意的なものという指摘もあり<sup>3)</sup>、正確性には限界がある。

死因のトップ10は、①心臓発作(19.4%)、②慢性閉塞性肺疾患(11.8%)、③虚血性心疾患(11.4%)、④下部呼吸器がん(5.6%)、⑤肺炎(5.5%)、⑥自殺(4.3%)、⑦肝硬変(2.1%)、⑧肝がん(2.1%)、⑨腎疾患(1.9%)、⑩高血圧性心疾患(1.8%)の順となっており、循環器系の多さが際立っている<sup>4)</sup>。

人口2485.9万人中、15歳未満人口22%、60歳以上人口13%、合計特殊出生率2.0は、韓国(15歳未満人口15%、60歳以上人口17%、合計特殊出生率1.3)と比べて若年人口が多く、今後も人口維持が期待される。我が国同様に少子高齢化に悩む韓国と対照をなしている。

## 2 医学界が把握しておくべきこと

### ①結核

この国の感染症で最も注目を集めるのが結核だ。人口10万あたりの有病率513(同年の日本16、米国3.2<sup>5)6)</sup>)。アフリカの中でも高率なモザンビーク(551)あたりと同等の数字で、国民約195人に1人の感染者ということになる。

しかしこれは、他国の大使館医務官と情報交換しながら脱北難民に接してきた実感からは、明らかに実態より控えめな印象を受ける。中国では「核兵器と結核が北朝鮮の最終兵器だ」というジョークまで囁かれているなど<sup>7)8)</sup>、国外からも注目を集める感染症と言える。治療カバー率は87%、つまり13%は放置されている。排菌を続けながら市中生活を送る感染者が多いことが窺える。

### ②マラリア

マラリアは1980年代までに、朝鮮半島からいったん撲滅されたが、経済危機の中、衛生水準も低下し、1990年代から復活してきた。2001年には30万例のマラリア感染が発生し、この時に韓国政府は180万

ドルの支援を行っている。その後減少に転じ、2003年6万例、2007年7430例となっている<sup>9)</sup>。

マラリアを媒介するハマダラカがDMZ(非武装地帯)を越えて韓国側で677例の感染者が出たこともあったが<sup>10)</sup>、国連機関やNGOの支援を経て減少傾向にある<sup>11)</sup>。

### ③薬剤耐性(AMR)問題

この国の医療現場では医薬品不足も深刻で、診察は受けられても医薬品がない。処方箋を手に闇市場に行き手に入れねばならないという脱北者の証言もあり、その入手可否に経済力が関わってくることになる。筆者の経験からも、ある難民に投与した医薬品が、いつの間にか他の難民に融通されていたことがあり(それ以降、スタッフの協力を得て1回分ずつ渡すことにした)、こうした環境、服薬コンプライアンス感覚からは、不完全な服用が横行することが推定され、AMR問題発生の素地となろう。

### ④寄生虫症

2017年11月13日に板門店で北朝鮮軍兵士が韓国に亡命するという事件が発生した。銃撃を受けた兵士はソウルの病院で手術を受け、その際に消化管内から“最大27cm”の寄生虫が摘出されたと報告されている。寄生虫罹患率のデータはないものの、1990年代から化学肥料が不足し、有機堆肥の使用が増えていることから<sup>12)</sup>、感染の広がる条件が整っていると言える。

### ⑤循環器疾患

DALY(障害調整生命年)では、「心血管系および糖尿病」が圧倒的に高く、「その他の非感染性疾患」「悪性新生物」が続く<sup>4)</sup>。死因の第1位が心臓発作で第3位が虚血性心疾患であることから、この国の疾病負荷として、感染症以上に循環器疾患は大きな存在となっている。

### ⑥メンタルヘルス

メンタルヘルス関係の実態は不明である。その要因として、金日成による「我が国を訪問する人は平壤を見て我が国を評価するから、平壤には精神的にも肉体的にも元気な者だけが住むようにしなければならない」との発言が強調され、家族の中に1人でも障害者がいれば、原則として家族全員が地方に追放される制度さえあり<sup>13)</sup>、ベールに包まれている点もある。しかしながら、死因の第6位が自殺であることから、メンタルヘルスの深刻な状況が推測される。

## ③ 考察

朝鮮半島情勢について、筆者は、米朝関係もさることながら、むしろ、南北関係の進行に注目する。合計特殊出生率が北朝鮮2.0に対して韓国1.3という大差からは、38度線を跨ぐ移動が自由になった時、少子高齢化による労働力不足が進む韓国から同民族・同言語の若い労働力が求められることが予想され、人の流れは大規模に増えていくだろう。また、韓国での労働により経済力を身につけた層からは、旅行やビジネスで他国に向かう需要も発生すると思われる。

最終ゴールである南北統一が実現した暁には、現在38度線以北に住む2500万人が統一朝鮮パスポートを手にして、現在の韓国パスポート(当然これも統一朝鮮パスポートとなる)所持者と同じ扱いを世界中の入国管理官や検疫官から受けることになる。このような条件が整ったときに視野に入ってくるのが、韓国から日本まで3700円からという格安運賃<sup>14)</sup>を提示している格安航空会社(LCC)の存在だ。2017年頃盛んに報じられていた、難民船の漂着どころではないインパクトがある。

この、北から南へ、そして日本へと予想される人の流れで懸念されるのは、結核とAMRであろう。北京の脱北者保護現場においては、駆け込んでくる難民の全てに対して、(現地医療機関に委託し、その方針により)X線検査とツベルクリン反応検査を行い、その中から実際に結核感染者を見つけることができた。我が国に入国する可能性について、これが難民としての入国であれば(項目は異なるにせよ)同様の処置が可能であるが、一般乗客としての入国であれば、それも難しくなる。二次感染を含め、市中で結核感染者に出会う可能性が増えることも視野に、結核の診断と疑い例の取扱いについても、現在以上に周知徹底していくべきであろう。また、AMRについて、経済的事情による抗菌薬の不完全な服用というケースを減らす必要があり、そのためにも各国からの人道支援が望まれる。

次に、今後の政治的展開によるが、人道支援、さらに2002年の日朝平壤宣言を満たすことになれば経済協力の可能性も出てくる<sup>15)</sup>。途上国支援全般の中で医療分野の支援は優先順位も高く、将来的に日本から医療協力にあたる可能性も想定すべきであろう。その際の優先順位として、感染症分野以上に高いのが循環器分野であり、虚血性心疾患の標準的治療、さらに

一次予防としての生活習慣病管理、特定健診・保健指導のノウハウなどの供与が考えられよう。

これまで国連関係者などを除き、壁の向こうの知られざる世界であった北朝鮮（あるいは将来の統一朝鮮）が、関与すべき対象となってきた時に慌てないよう、政治の動きと並行してウォッチしていきたい。

#### 【文献】

- 1) 日本経済新聞 :2018年6月8日.
- 2) 伊藤亜人:北朝鮮人民の生活 脱北者の手記から読み解く実相. 弘文堂.2017;21.
- 3) Yo Han Lee,et al:J Prev Med Public Health.2013 May;46(3):111-117.
- 4) Democratic People's Republic of Korea:WHO statistical profile  
[<http://www.who.int/gho/countries/prk.pdf?ua=1>]
- 5) Democratic People's Republic of Korea Tuberculosis profile  
[[https://extranet.who.int/sree/Reports?op=Replet&name=/WHO\\_HQ\\_Reports/G2/PROD/EXT/TBCountryProfile&ISO2=KP&outtype=html](https://extranet.who.int/sree/Reports?op=Replet&name=/WHO_HQ_Reports/G2/PROD/EXT/TBCountryProfile&ISO2=KP&outtype=html)]
- 6) Estimated Tuberculosis cases and deaths 1990-2014  
[[http://gamapsserver.who.int/gho/interactive\\_charts/tb/cases/tablet/atlas.htm](http://gamapsserver.who.int/gho/interactive_charts/tb/cases/tablet/atlas.htm)]
- 7) North Korea's Other 'Weapon' Is Poised to Explode  
[<https://www.bloomberg.com/news/articles/2018-04-11/north-korea-s-other-weapon-is-poised-to-explode>]
- 8) North Korea has a big tuberculosis problem. It's about to get worse  
[[https://www.washingtonpost.com/news/monkey-cage/wp/2018/04/12/north-korea-has-a-big-tuberculosis-problem-its-about-to-get-worse/?noredirect=on&utm\\_term=.3623dab8d208](https://www.washingtonpost.com/news/monkey-cage/wp/2018/04/12/north-korea-has-a-big-tuberculosis-problem-its-about-to-get-worse/?noredirect=on&utm_term=.3623dab8d208)]
- 9) North Korea fights off malaria as disease heads South  
[<https://www.reuters.com/article/us-korea-north-malaria/north-korea-fights-off-malaria-disease-heads-south-idUSSE016790420080527>]
- 10) South Korea's demilitarized zone:a malaria battlefield  
[<http://www.dw.com/en/koreas-demilitarized-zone-a-malaria-battlefield/a-19084748>]
- 11) Malaria cases in North Korea dropped for four consecutive years  
[<https://www.upi.com/Malaria-cases-in-North-Korea-dropped-for-four-consecutive-years/7541512476370/>]
- 12) 北朝鮮「亡命兵士」の腸が寄生虫だらけになった理由  
[<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/11/post-8930.php>]
- 13) 伊藤亜人:北朝鮮人民の生活 脱北者の手記から読み解く実相. 弘文堂.2017;51-56.
- 14) ティーウェイ航空  
[[https://www.twair.com/main.do?\\_langCode=JA](https://www.twair.com/main.do?_langCode=JA)]
- 15) 日本経済新聞 :2018年6月14日.